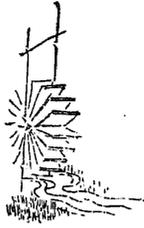


越苦勞とか愚痴とかいふのは、何の益にも立たぬことを何時までも考へたり言つたりするのでありませう。つまり、安心したり、思ひきつたり、思ひ開いたり、することが出来ぬから起ることで極々馬鹿らしい事でございませう。私共はどうかして、こんな馬鹿らしい事に大切な頭をつかつたり、貴重な時間を費したくないものであります。れ互に、女は愚痴ぼいものだとか「取越苦勞をするものだ」といふことを考へる人がなくなる様にしたいたものであります。

行水のすて所なし虫の聲



寄書



世の母たる人につぐ

埼玉縣 羽山好作

凡そ人間に教育を施すべき場所は、最初家庭に始まり、其の段階種々にして、小學校あり、中學校あり、大學校もありて、何れも肝要なりと雖も、就中兒童が家庭に在りて、其の慈母の膝下にある時程、最も大切な場合はあらず。彼の樹木に就て之を視るに、其の初生の時に於て受けたる癥痕は、成長すると共に其の痕も、亦益々増大すると同じく、人も幼稚の時に受けたる性癖は、何れの

時に至るも決して蟬脱すること能はず。然るに世の母親たる人、多くは此の理を辨へずして、幼児保育の大切なることを知らざるもの、如し。即ち世間多くの母親たる人が、其の兒童を養育するの有り様を見るに、唯之に飲食を與へ、衣服を給する事の外は、其た心を勞せざる者の如し。換言すれば、幼時に善良なる習慣と、善良なる氣質とを、育成するの最も必要なることに、何たる考もなく、縱令其の子の賞すべき事あるも、却て之を罰し、懲らすべき行あるも、却て之を稱揚する等、前後不都合の取扱を以て、幼児に對するもの多し。此の如き狀況にては、到底幼児をして、完全に保育すること能はず。實に幼稚なる兒童は、見る事聞く事、悉く其の母親のする所に摸倣せんとするは、自然に出づる性にして、其の母の賢

否は、直に以て其の子の賢否を表するものなり。されば、世に才藝人に勝れ、社會を益し、國家を富して、偉大の功業を爲し遂げたる人を見るに、皆其の母の賢良なるに依らざる者、殆んど稀なり。彼の兒童が慈母の膝下を離れて、其の齡五六歳に至るや、是れ其の習慣氣質の基礎、略定する時にして、一旦不良の陋癖に馴染することある時は、其の後學校の教育を以て、幾分か其の陋習を變換するを得べしと雖も、源泉の既に汚濁せるものは、到底末流の清澄を望む可からざるが如く、家庭保育の不完全なるより來る所の不良氣質は、學校教育を以て、悉く之を除去し得らるべきものにわらず。故に世の母親たる人々は、常に茲に注意して、幼児保育の完成を期せざる可らず。實に母親たるもの、賢否は、即ち以て國家の盛衰を致す

の本源なるを以て、自ら其の本分を辨へ、十分に

之が注意を加へ、其の子の成長するが

儘に、放擲して顧みざるが如きことな

く、不良の習慣不正の心術を傳達する

が如きことなきを要す人誰か其の子の

賢明善良なるを欲せざらん。誰か其の

子の富貴榮達を希はざらんされば、世

の母として、幼児保育の任を負ふもの

は、須らく幼児を愛に溺れしめず、又

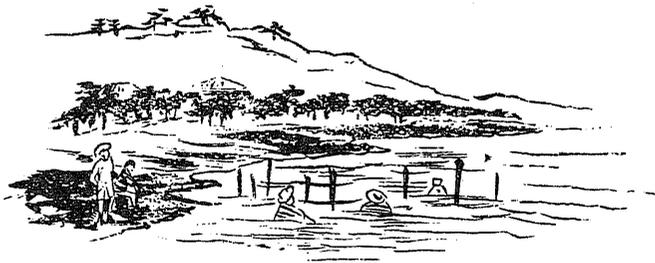
叱咤を加ふるが如きことなく、又虚言

を爲して幼児を欺くことなく、不正な

ることは、見聞せしめざるやう注意

し、賞罰のことは、最も心を用ゐ常に

清潔と整正との習慣を養成するを要す。



鈴虫やなき揃ふたる千草かな

余が實驗せる特殊

なる家庭と兒童(承前)

岩手縣師範學校

菅原文一郎

先づ酷いことには、この生徒が漸やく十歳であるが學校からかへると、まづその日の學校で教へられたことを復習し、夫れからあとは、四書とか五經とかを教へるといふことだ、活動の盛んな子供をして、二時間も三時間もついでにやるといふには、驚かざるを得ないのである、夫れで間々には、苦し